

# 令和4年度第1回神奈川県公立大学法人 神奈川県立保健福祉大学評価委員会 議事録

## 議題1 令和3年度業務実績報告書について

---

## 議題2 第一期中期目標期間（見込）における業務実績報告書について

---

事務局から資料1～8について説明した。  
保健福祉大学から資料9～14について説明した。

### 【質疑応答】

- 鈴木委員** 過去に常勤の教員数を充足できていない状況があり、おそらく現場の教員に負荷がかかっているものと思われる。特に今は新型コロナウイルス感染症への対応もある。勤怠管理システムを導入したとのことだが、実際どのような状況なのかお聞きしたい。
  
- 保健福祉大学** 勤怠管理システム導入により、教員の働いている状況が紙での管理よりもリアルタイムに近く、正確に分かってきた。教育効果の発現にはワークライフバランスが整えられた状況で働くことが大切である。システムにより確認できた状況に対し、どのように対応すべきか向き合っていきたい。
  
- 鈴木委員** 教員の皆さんは学生と向き合うことに熱心で、「時間をかければかけるだけ」という思いもあるのでは。研究の場合も、境目が難しいかと思うが適切な対応をお願いしたい。
  
- 長野委員** 事前質問でもお聞きしたが、保健師の大学院教育についてお聞きしたい。看護の臨床の中では、新型コロナウイルス感染症に関連し保健師のニーズが高い。人材確保を急がなければいけないと盛んに言われている。今後も新型コロナウイルス感染症に対応せざるを得ないと思っている。大学院制度については県と調整中とのことだが、看護協会では実際に助産師や保健師の教育に関しては、（学部の）カリキュラムの中で対応できないので大学院の中で整理すべきと働きかけるように、という動きがある。助産師課程等を大学院にもっていくメリットは何か。

○**保健福祉大学** 第二次将来構想の中で、保健師教育・助産師教育の高度実践化をめざし、大学としては両職種を学部の外に出して、高度な実践力を修得できるようにと考えている。かつ、県内でリーダーシップをとれるような保健師・助産師を育成したいということで学内では合意を得ている。保健師に関しては新型コロナウイルス感染症拡大の状況があり、どの時期にどのように切り替えられるのか県と調整中である。助産師に関しては指定規則が大きく変わり、他大学では一部共通科目として読み替えているような状況があるが、本学は読み替えなしで行ってきた。24単位が28単位になり、今回31単位になった。さすがに学部の中で入れ込める余裕がなくなってしまった。また同時に、母親の産後うつ、子ども虐待のケースも増えている。周産期のメンタルヘルスも強化が必要である。ハイリスクの妊娠出産も増加している。こうした状況から、助産師の能力を高める必要がある。産科救急に対応する能力も必要であり、地域の中で包括的な子育て支援など大きな課題も助産師教育で求められる。学部で十分な教育が難しいことが明らかであり、大学院に切り替えさせていただいた。

○**長野委員** 実際に大学に通わせる側としては、さらに勉強しなければいけない、経済的にも負担が生じる。それにかかる議論はあったか。

○**保健福祉大学** 学部の中で保健師・助産師が看護師資格に加えて取れることに対し、開学当初は魅力を感じて入学する学生が多かった。ただし、教育の内容・求められている能力を話すと、今の学生は、看護の能力をしっかりとつけて、その上で（保健師・助産師の）力をつけたいという学生が増えている。最初は2つ（の資格が）取れるということで興味をもっても、本当に学部の中で選択していいのか考える学生が今は多い。公立大学なので授業料についても私学とは違い低い。保護者は「一緒に取れるなら」と思うだろうが、大学院で学ぶことの成果を学生が理解すると、親を説得しよりよい教育を大学院で受けたいと学生の思考が変わっていると感じる。

○**山田委員** このコロナ禍において、運営費交付金が前年度に比べ少なかった理由は何か。

○**保健福祉大学** 6年間の中期計画の期間において長期的なスパンで県と協議し、予算のフレームワークが決まっている。シビアにみていくと、大学の予算を切り詰める余地が若干ある一方で、県の財政もかなり厳しいという状況があり、協力できるところは協力していこうということで、予算編成のキャッチボールの中で調整した。学校の運営に支障がないようにという観点で行った。

○**鹿島委員** 学生の（新型コロナウイルス感染症）ワクチン接種率についてお聞きしたい。また、学生がワクチンを拒否した場合はどのように対応しているか。

○**保健福祉大学** ワクチン接種の調査はしているが、個人情報なので割合は出していない。実習の際、ワクチン接種状況を把握しており、だいたい98%くらいではないかと思われる。諸事情で受けていない学生はいる。病院側が学生を受け入れないということはないが、PCRを受けてほしいと言われた場合は、個人負担で受けるよう指導している。

○**鹿島委員** 大変高い接種率である。ベンチャー企業は創発のみの支援か。あるいは成長まで面倒をみるのか。

○**保健福祉大学** 臨床工学技士のヘルスイノベーション研究科修了生が起業した。彼は学生時代から発展途上国にボランティアで行き、様々な支援をしていた。ASEAN諸国で、素晴らしい機械・物質的支援があってもメンテナンスも人の教育もしないので、（使われず）山積みになって壊れていたりするのを目の当たりにした。これを解決するため、AIなどを使いながら、例えば機械の写真を撮ると機械が登録され、管理のための台帳ができるようにした。さらにビデオを使った教育システムがある。登録・管理・教育を一体で行うようなクラウドシステムを作り特許を取り、5月に起業した。登記はヘルスイノベーション研究科のある川崎市殿町である。我々のサポートについては、アントレプレナーシップの教育を充実させたことが挙げられる。クロスポイントメントで早稲田大学にも籍を置く教授等が積極的にサポートした。彼は様々な賞も取っており、経産省の賞ではグランプリを獲得し、そうした賞金等も使っている。起業後の支援については、幸い、殿町にはベンチャー企業を支援するエコシステムやネットワークが整いつつあるほか、初年度は文科省のSCOREや令和4年度はGTIE(Greater Tokyo Innovation Ecosystem)も活用している。県や川崎市とともに今後もサポートをしていきたい。実はベンチャー企業の創出はもうひとつある。精神障がい者のアートを買い取り、商品化するなどし、精神障がい者に還元するもの。また、NPOを立ち上げた方もいる。

○**鹿島委員** 科研費の申請件数 52 という目標はどのように設定したのか。

○**保健福祉大学** 資料 3（中期計画）別紙の数値目標の下にあるアスタリスクをご覧ください。目標値の算定方法は、過去の実績に 10% 上乘せすることとしていた。第二期を目指しては、委員ご指摘の視点が大切であると思うので、学内で検討していきたい。

○**鹿島委員** 申請可能な人数に対して目標設定が低すぎるのではないかと。採択率ではなく、講師以上は申請する心構えが大切である。

○**鈴木委員** 学部入学者の受験倍率が低下した。事前質問への回答の中で、保健医療福祉職のイメージが変化したとあるが、具体的に聞きたい。18 歳人口が減る中、人材を呼び込んでいくことについてどうお考えか。

○**保健福祉大学** 保健医療福祉職のイメージの変化に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響が大変大きかったと感じる。家庭の事情があったり、あるいは子育て中の看護職が新型コロナウイルス感染症関連のケアにあたるために家族と離れて仕事に出たり、部署を変えて配置されたりと、厳しい状況が報道等でも連日のように流された。ワクチン接種前の医療職のイメージの一部は「大変だから（医療職に）就くのはやめようか」といったものであった。ただ、新型コロナウイルス感染症がきっかけで、「欠かせない重要な職業だ」というイメージも反面強くなった。我々としては絶対になくならない必要な職業だということを若い学生にアピールできればとも思う。開学 20 周年を迎え、学生の質も 20 年の間に変わってきている。アドミッションポリシーを大学全体で考え、新たに作成した。アドミッションポリシーに沿った学生にどのように大学に入ってもらえるのか、全学で考えているところである。具体的には高校の校長先生の意見を聴取したり、予備校の先生から大学のイメージを聞いたり、今までとは違うアプローチで大学をアピールすることを考えている。

○**保健福祉大学** 今回、新型コロナウイルス感染症の影響が大きかった。看護師、保健師、理学療法士等の職種がリスクの高い、とても危ない職業だと若者が思っただろう。一方で、リスクでありながら人々に尽くすという、より高度な志を持った若者が育ったことも確かである。我々の役割は、保健医療福祉をやる人間は高い志を持つべきだ、また、地域に対し非常に貢献できる職業だということを、日頃から何らかの形で教授しなければと身にしみて感じた。18 歳人口減少の問題についても、戦っていかなければいけないと感じている。今年は倍くらいの数の高校を訪問している。

○**鈴木委員** 今の若い方たちは社会に貢献したいと思っている方が多い。色々な取組みを進めていただきたい。社会全体でいかにその職業が重要であるのか、重要な仕事をしている人への評価が大切である。そういったことが世の中で議論されるといいと思う。

○**長野委員** 実際に新型コロナウイルス感染者を受け入れる病院で看護管理者をしていた。看護師のうち、協力できるという方は6割であり、個人が基礎疾患を持っている、家族の協力を得られない、子育て中の状況などがあり、4割の方は協力できない状況であった。志が高い方々の中には、家族を説得するなどしてくれた方もいた。第5波あたりから、家族が感染して休まなければならないという状況が起き、勤務可能な人員確保が困難という状況が散見された。ワクチンの早期接種をお願いするなどして、色々な手を使いながら感染症に対応した。今でも看護師は感染対策上多く必要で、不足している状況である。

○**保健福祉大学** 看護師はじめ、福祉や医療の分野で働く人の問題ということで、大学の枠を超えて話す。専門能力に注力できるように、能力以外のところでカバーできる他職種やAIなどを入れて負担を減らし、働きやすい環境をつくりイメージアップができれば、希望者が増えるのではないかと思う。

### 議題3 財務諸表等・利益処分案について

---

保健福祉大学から資料15～19について説明した。

#### 【質疑応答】

特になし

### 議題4 その他

---

事務局から次回開催予定について伝達した。

#### 【質疑応答】

特になし